

独立行政法人国立女性教育会館の平成 29 年度文部科学省業務実績評価の結果を踏まえた業務運営の改善等への主要な反映状況

中期計画項目	平成 29 年度業務実績評価における主要な指摘等	左記の指摘等を踏まえた平成 30、令和元年度の改善の状況
<p>IV その他業務運営に関する重要事項</p> <p>5 PFI 事業の適切な実施のための監視・協力</p>	<p>・施設全体の利用率については目標を達成したが、宿泊施設の利用率については未達成。PFI 事業者との更なる連携により、利用者の利便性の向上やサービスの充実、積極的な広報活動を図ること。</p>	<p>①PFI 事業者が様々な団体・機関と連携し、主催事業と連動した宿泊プランやインターネットエージェントを活用した利用申込を導入することにより宿泊者の獲得が図られた。また、県内に限らず近隣他県の大学や企業、観光協会等を訪問することにより、新しい利用団体の獲得に繋がった。</p> <p>②平成 30 年度は、平成 29 年度と比して利用率が大幅に増加した。宿泊施設利用率、研修施設利用率、施設全体利用率が目標値を超えることができた。</p> <p>平成 30 年度は、宿泊施設利用率は 48.6% (目標値 46%) となり、次年度目標 (目標値 48%) を 1 年前倒しで達成する水準に達した。</p> <p>③令和元年度は、台風 19 号の影響を受けながらも、全体としては順調に推移し、令和 2 年 1 月時点では年間目標値を十分達成できる見込みであった。</p> <p>しかし、新型コロナウイルスによる全国的な感染拡大の影響で 2 月上旬頃から、キャンセルが急増し、年間目標値の達成は困難となった。</p> <p>令和元年度は、宿泊施設利用率は 46.7% (目標値 48%) となった。</p>